2022
CAMPUS GUIDE

SCHOOL OF ENGINEERING

●Department of Electrical Engineering and Computer Science ●Department of Materials ●Department of Applied Chemistry ●Department of Chemical Engineering
●Department of Interdisciplinary Engineering ●Department of Mechanical Engineering ●Department of Aeronautics and Astronautics ●Department of Applied Quantum Physics and Nuclear Engineering
●Department of Naval Architecture and Ocean Engineering ●Department of Earth Resources Engineering ●Department of Civil Engineering ●Department of Architecture

KYUSHU UNIVERSITY

九州大学工学部

九州大学工学部で世界に羽ばたく専門力を培いませんか

C O N T E N T S

学科一覧・入学から卒業までの流れ……03
入試情報……05
工学部生からの一言メッセージ……06
座談会……07
電気情報工学科……11
材料工学科……12
応用化学科……13
化学工学科……14
融合基礎工学科……15
機械工学科……16
航空宇宙工学科……17
量子物理工学科……18
船舶海洋工学科……19
地球資源システム工学科……20
土木工学科……21
建築学科……22
サークル紹介……23
留学プログラム……23
卒業生メッセージ……24
就職先リスト……25

～100年の歴史と伝統、そして新キャンパスから未来へ～

1911年（明治44年）に創立された九州帝国大学工科大学が、工学部の起源です。100年の歴史と伝統を有する工学部は、戦前、戦後を通して、鉄道・土木・通信などの交通通信分野や鉱山・製鉄・造船・航空・機械製作・化学・繊維などの日本の礎となる基盤産業に多数の人材を輩出し、日本の発展を支えてきました。

1911年の発足以降、工学部は長きに渡って箱崎キャンパス（福岡市東区）に教育研究施設を置いてきましたが、大学のキャンパス移転構想の第一陣として2005年（平成17年）10月から伊都キャンパス（福岡市西区）へ移転を開始し、2007年（平成19年）3月には建築学科を除く5つの学科が移転を完了しました。また、建築学科も2018年9月には、移転を完了しました。

自然豊かな広大な敷地の中に世界的にも最先端の施設や設備を有する伊都キャンパスは、工学部のこれから100年先につながる新たな歴史を刻む学び舎として皆さんを迎えてくれます。

▲1914年（大正3年）
九州帝国大学工科大学正面

▲箱崎キャンパス:旧工学部本館

「九州帝国大学工学部銘板」

1919年（大正8年）前身である工科大学が工学部と改称された際に製作されたと考えられる銘板。戦時中、多くの金属製銘板が戦時供出された中、現存する貴重な銘板。

2017年10月、工学部同窓会の基金により本銘板のレプリカのモニュメント（記念碑）を伊都キャンパスウエスト4号館横に建立。

九州大学大学院工学研究院長
大学院工学府長・工学部長
園田 佳巨

昨年（2021年）11月に九州大学は文部科学大臣より「指定国立大学法人」の指定を受けました。今後の九州大学には、世界の有力大学と国際的な競争の中で伍していくことが求められ、我が国の大学改革の推進役を担うことが期待されています。九州大学は「総合知で社会変革を牽引する大学へ」をスローガンに、今後10年間の方針として「VISION2030」を策定しました。この中には、自然科学系と人文社会系の多様な「知」を結集し、社会変革を促すイノベーションの創出が謳われていますが、その実現には工学の力が欠かせません。我々工学部は、この実現に全力で取り組む所存です。

九州大学工学部は、昨年度から学部４年と修士２年を連続させた６年一貫教育をベースに各学科の専門科目だけでなく高度情報化社会に不可欠な情報科学の知識を修得するようにしました。また，修士課程では異分野科目も選択・履修することで、今後の技術動向の変遷に柔軟に対応できる素地を身に付けるようにしました。最近は，九大工学部学生の85%が修士課程に進学していますが、彼らは６年一貫教育の理念（専門外も学ぶ柔軟性、情報リテラシー、国際性の涵養）に基づく高度な専門力を修得することになります。

九州大学工学部は、1911年（明治44年）に九州帝国大学工科大学として創立され、1919年（大正8年）に九州帝国大学工学部、1947年（昭和22年）に九州大学工学部となり現在に至りますが、西日本における拠点大学として先導的研究・教育を担い続け、これまでに約50,000名の卒業生を送り出すことで、我が国の工学技術・産業の発展に貢献してきました。我々が基礎教育を重視する姿勢は今後も変わりませんが、経済のグローバル化が著しい現在の社会情勢を鑑み、国際的な場で活躍できる人材・世界を主導できる人材の育成に注力していきたいと考えております。

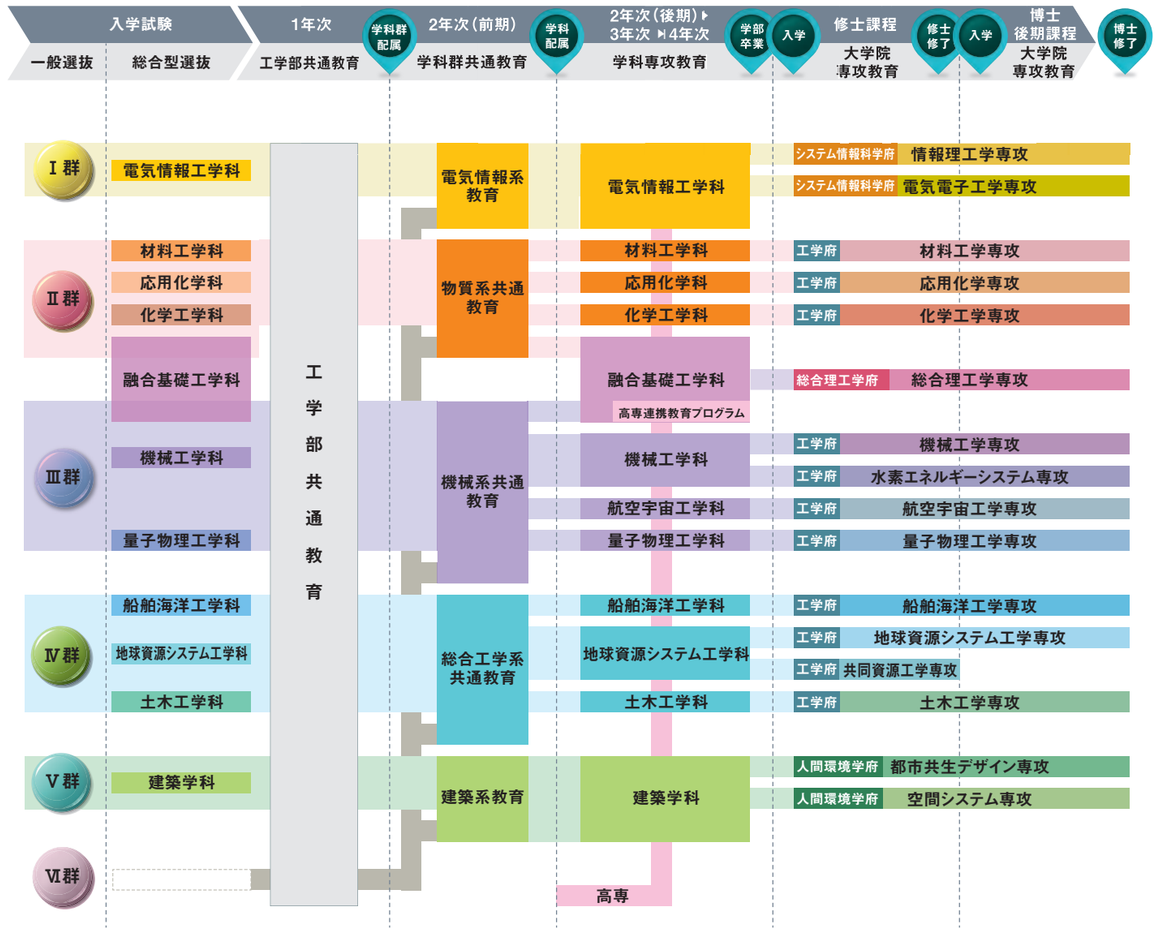
その一環として、北米や豪州への学生派遣・研修プログラム（コロナ禍の昨年はオンライン研修に変更）などを工学部独自に実施しています。また、学部国際コースには、世界各国から優秀な高校生が入学しており、彼らと英語で共学できる環境もあります。これから大学で学ぶ予定の高校生の皆さん、自らの無限の可能性が引き出せる環境が整っている九州大学工学部で世界に羽ばたく専門力を培いませんか。

学科一覧・定員

群	学科	掲載ページ	一般選抜 前期日程	一般選抜 後期日程	総合型選抜	定員合計	教育内容
Ⅰ	**電気情報工学科** Department of Electrical Engineering and Computer Science	P11	98	17	8	123	電気情報工学を専門として新しい技術開発を行い、それを通して安全・安心、持続可能で豊かな社会に貢献する人材を、計算機工学コース、電子通信工学コース、電気電子工学コースの3つのコースを設けて育成します。
Ⅱ	**材料工学科** Department of Materials	P12	123	21	3	43	材料工学を専門とし、物質を構成する原子や電子の微視的な振る舞いを理解して、材料の特性が発現する原理と概念に基づいた新材料の開発により持続可能な社会の発展に寄与する人材を育成します。
Ⅱ	**応用化学科** Department of Applied Chemistry	P13			4	58	化学を専門とし、物質の構造・性質・反応を原子・分子レベルで理解したうえで、原子・分子を設計・操作して新物質の合成や物質の変換およびプロセスの開発などを行って持続可能な社会に貢献できる人材を育成します。
Ⅱ	**化学工学科** Department of Chemical Engineering	P14			2	31	化学工学を専門とし、環境・エネルギー、新規機能性材料、バイオテクノロジー・高度先進医療、生産プロセスなどの分野において、地球環境との調和と人類の福祉に貢献できる人材を育成します。
Ⅱ	**融合基礎工学科** Department of Interdisciplinary Engineering	P15			2	46	物質科学と材料工学を融合した物質・材料工学分野、または機械工学と電気電子工学を融合した機械・電気電子工学分野を主たる専門とし、情報科学を副専門としながら問題解決型学習に重きを置いた教育により、環境・エネルギー問題に代表される多様で複雑な課題に対応し、解決することができる工学系π型人材を育成します。
Ⅲ	**機械工学科** Department of Mechanical Engineering	P16	146	25	7	108	機械工学を専門とし、主として物理法則の基礎理論を理解して、社会のニーズに応えるため、制約条件の下で環境への影響を考慮しながら機器やシステムを設計製作し、あらゆるモノづくりを支える人材を育成します。
Ⅲ	**航空宇宙工学科** Department of Aeronautics and Astronautics	P17			0	21	航空宇宙工学を専門とし、力学を基礎とした工学理論や、航空宇宙機開発特有のシステム工学に関連する基礎知識を有し、新しい航空宇宙機の開発や運用環境拡大によって生ずる課題を発見・解決できる人材を育成します。
Ⅲ	**量子物理工学科** Department of Applied Quantum Physics and Nuclear Engineering	P18			2	30	応用物理、量子科学、原子核工学を専門とし、新しい量子現象の観察やその応用、量子ビームの開発と医療・生命分野などへの応用、新規材料開発、エネルギー開発、環境保全等へ貢献できる人材を育成します。
Ⅳ	**船舶海洋工学科** Department of Naval Architecture and Ocean Engineering	P19	92	16	5	29	船舶工学、海洋工学を専門とし、グローバルな価値観に基づいて海洋と人類の共生への貢献を目的として、造船技術の継承・発展ならびに持続的な海洋開発を担う総合工学的な広い視野を持った人材を育成します。
Ⅳ	**地球資源システム工学科** Department of Earth Resources Engineering	P20			2	28	資源工学を専門とし、国際的に展開される地下資源の開発と供給、国内外における自然災害の防止技術の開発や地球環境への負荷を軽減する様々な技術の開発などを担う人材を育成します。
Ⅳ	**土木工学科** Department of Civil Engineering	P21			4	62	土木工学、環境工学を専門とし、構造物の設計・施工から、環境の保全、災害の防止に関する様々な知識を有して、自然や文化に配慮しながら安全・安心な国土を整備するとともに、国土の諸問題を解決できる人材を育成します。
Ⅴ	**建築学科** Department of Architecture	P22	46	0	6	52	建築学を専門とし、自身の知識と思考力で課題の本質を読み解き、変化する社会情勢に応じた環境のデザイン力と理論に裏打ちされた技術・技能により都市・建築に関わる課題の解決策を導き出せる人材を育成します。
Ⅵ	—		124	23	—	147	

※上記のほか、融合基礎工学科では定員を20名とする編入学試験を新たに実施します。（令和5年4月編入学者から実施予定です。）

入学から卒業・修了までの流れ



2023年度の選抜方法

総合型選抜：書類審査、大学入学共通テストと面接（実技）等

志望の動機や高校時代の活動および基礎学力を総合的に評価して選抜します。
この選抜のみ、学科群ではなく学科ごとに選抜します。

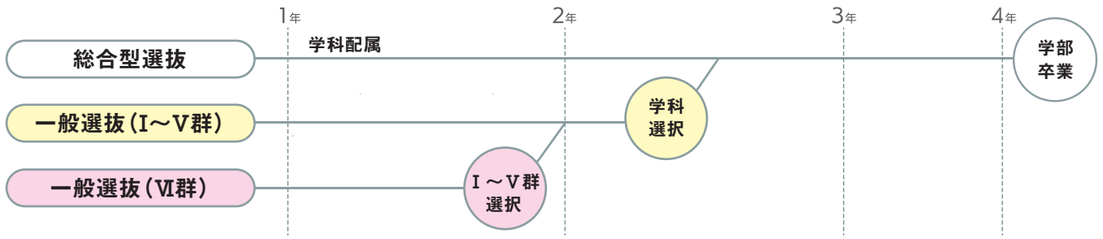
一般選抜（前期・後期）：大学入学共通テストと個別学力検査

学科群（Ⅰ～Ⅴ群）ごとの選抜

Ⅰ～Ⅴ群： 専門教育で必要とされる基礎科目が共通の学科群ごとに募集・選抜します。
群を構成する学科への配属は、2年前期終了時に行います。

Ⅵ　群： 入学時には学科群が未定の学部一括として募集・選抜します。
1年終了時に学科群（Ⅰ～Ⅴ群）に配属し、2年前期終了時に学科を決定します。

入学後の学科決定の流れ



※ 学科群や学科の選択は、「志望」や「大学での授業の成績」等に基づいて行われます。

Ⅵ群とは

▶学科群（大括りの学問分野）を入学1年後に選択できる入試選抜の括りです。
▶より多くの正確な情報に基づいて学科群を選択することができます。
▶1年次はすべての学科群で「工学部共通教育科目」を履修するため、
Ⅰ～Ⅴ群入学の学生に比べて学習に後れを取ることは全くありません。

Ⅵ群受験を勧めたい生徒

複数の学科に関心がある人

物理系にも電気系にも興味がある!
どちらに進もうかな…

計算科学をやってみたいし、物質のミクロな世界も学びたい!
講義を受けてみてから学科を選びたいな

目標に向かうための進路が不明な人

将来はエネルギーの研究開発に携わりたい!そのためには、どのような分野に進んで行ければいいのかな～?

工学部は分野が広くて、高校でも十分な情報を得るのが少し難しいから、まだよく分かっていないんだよね。

学科や専門分野のイメージが湧かない人

理系科目が好きなので工学部でいろいろ学びたいけど、どの分野でどのようなことを学べるの?

Welcome Message 先輩からのメッセージ

九州大学工学系の学部・専攻で学ぶ先輩たちが、キャンパスライフの魅力についてメッセージ。

伊都キャンパス❶
自然が豊かで野生動物と遭遇も
自然豊かで、夜に散歩をしていると星がきれいに見えたり、野生動物と遭遇したりします。海も近いので、講義終わりに海岸沿いをサイクリングもできます。
谷澤 健太さん 機械工学科4年

自慢の施設❶
規模の大きさに驚く船舶運動性能試験水槽
船舶の運動に関する実験のための設備です。大きい屋内水槽と模型曳引車、造波装置が備えられており実際に目にするとその規模の大きさに驚きます。
稲岡 諒朗さん 船舶海洋工学科4年

研究室
先生のお心遣いで使用できる機材が多い
石原研究室は、教授陣との距離が近く、手厚い対応が受けられます。先生のお心遣いにより、学生が使用できる機材が多いので、研究もとてもスムーズです。
茂木 彩奈さん 応用化学科4年

留学❶
オンライン海外研修Q²PECで英語力が向上
工学部独自の海外研修Q²PECに参加し、英語コミュニケーション力が向上しました。ディスカッションも多く、自分の意見を英語で伝える難しさや異文化交流の楽しさを感じました。
小田 翔子さん 電気情報工学科4年

学生寮 ドミトリーII
学内施設の多くが徒歩圏内にある
徒歩圏内に自由に出入りできる図書館・食堂・トレーニングルームがあり、常に管理人さんが居てくださるので安心・安全な環境というのも魅力です。
髙木 優朋さん 材料工学科4年

先生❶
知識の豊富さが魅力の教授陣
九州大学の教授方は、知識の豊富さがすごいです。授業で少し疑問に思ったことなどを質問すると、すぐに優しく丁寧に自分が理解できるまで説明してくれます。
廣田 祐也さん 化学工学科4年

図書館❶
中央図書館で専攻以外の学問に触れる
私が利用している中央図書館は、自分の専攻とは遠い学問に触れることができるのが魅力。4階の哲学や心理学のコーナーには興味深い本が揃っています。
川井 大海さん 量子物理工学科4年

自慢の施設❷
集中して勉強できるStudy Park
個室ブースで集中して勉強することができる場所です。飲食も可能で24時間利用でき、ライトもブースごとに用意されているため、快適に勉強できます。
今若 珠月さん 地球資源システム工学科4年

学内飲食施設❶
メニューが豊富なGARDEN KITCHEN
メニューが豊富で、ラーメンだけでも豚骨、トマト、みそ、担々麺などたくさん。飽きることなく食べ続けることができます。中でもローストビーフ丼は絶品。
森田 修治さん 化学工学科3年

筑紫キャンパス
JRも西鉄も利用しやすい環境
最寄り駅に近くてJRも西鉄も通っているので通学しやすいですし、天神や博多駅などの繁華街に出るのも便利。キャンパス入口の並木道もきれいです。
岩田 愛紗さん 融合基礎工学科4年

学内飲食施設❷
「ビッグどら」のハラル料理に感動
「ビッグどら」内にハラル料理があることに感動しています。おかげでムスリム（イスラム教信仰者）の学生も通常どおりの生活を過ごすことができます。
アブデルモニエム ガバルさん 航空宇宙工学科4年

先生❷
講義を通して研究内容を知る
専攻科目は所属している学科・コースの研究室の教授・准教授の方が教えてくださるため、講義を通してどのような研究をされているかを知ることができます。
中川 さくらさん 応用化学科3年

国際交流❶
留学生が多い研究室で様々な文化言語に触れる
研究室のメンバーの約半分が留学生のため、様々な文化言語に触れる機会が多いです。海外に行きにくい現在では非常に貴重な体験をさせてもらっています。
川浦 悠梨乃さん 土木工学科4年

自慢の施設❸
最新導入の「ShopBot」は自分で木工加工が可能
「ShopBot」は、ガイダンスを受けることで建築学科の人が誰でも使用できる木工加工機。自分が設計したものが実物化できるのは、貴重な機会です。
川村 まいさん 建築学科4年

サークル活動❶
地域の空き家を改修「糸島空き家プロジェクト」
大学の周辺にある空き家を改修し、学生寮や交流の場として再生しています。実際に作業することで、講義で習ったことや考え方がより深まって面白いです。
シュレスター アカシさん 建築学科2年

図書館❷
理系図書館は専攻書籍が豊富
いつも課題に取り組むときに活用しています。自分の専攻の書籍が理系図書館には多くあるので、わからないとこがあればそれらの専門書を参考にして課題に取り組んでいます。
河邉 宏紀さん 土木工学科3年

留学❷
オンラインでも国際的な友人ができた
英語を躊躇なく話すことができるようになりました。クイーンズランド大学の語学研修には、さまざまな国の学生が多く日本人以外の友だちもできました。
久良木 隆晴さん 土木工学科3年

国際交流❷
部活動にも留学生が在籍
私は空手道部に所属していますが部員にも留学生が数名おり、いろいろな話を聞いています。部活動を通して留学生と関わるとすぐに仲良くなれました。
井上 雄介さん 船舶海洋工学科3年

伊都キャンパス❷
ほどよく田舎なのがキャンパスの魅力
天神や博多、福岡空港へのアクセスが良いのに、大学周辺は自然が豊か。ほどよく田舎で静かなところが好きです。キャンパスも比較的新しくてきれいです。
須貝 優介さん 量子物理工学科3年

サークル活動❷
競技かるたを楽しめる「九大百人一首愛好会」
競技かるたのサークルです。真剣勝負のピリッとした雰囲気も和気あいあいとした様子も併せ持ち、大学生選手権では前回ベスト4という好成績でした。
自見 壮二朗さん 化学工学科3年

Special Talk

特集【工学部長と学部生座談会】

With コロナ時代の学びと生活

2020年から続くコロナ禍でのキャンパスライフ。
オンラインでの授業や部活動の制限など、
さまざまな苦労を乗り越えてきた工学部の先輩たちが
“withコロナ時代の学びと生活”を語ります。

コロナ禍で入学してきた先輩たちは どのような学生生活を過ごしてきたのか

コロナ禍の学生生活で辛かったこと

園田：今回はちょうどコロナ禍の真っただ中で九州大学工学部に入って来た学部生の皆さんに集まっていただきました。まずはコロナ禍で辛かったことを振り返っていただけますか。

森田：やはり新しい友人との交流がなかったことですね。いきなりオンラインでの授業だったので、大学に入学したという気分になれませんでしたし、親にも「なんだか予備校の九大の大学講座を受けているようだね」と言われました。

中川：私も友人が作れなかったことです。入学したての1年生の時が友人を作る一番のチャンスだと思いますが、3年生になった今でも同じコースでマスクを外した顔を見たことがない人がたくさんいます。それとパソコンの使い方が十分にわかっていないので、大切な情報を取り損ねているのではないかという不安がありました。

園田：なるほど。通常であれば、入学後にパソコンの使い方を含めたガイダンス的なものは行うのですが、みなさんの時はガイダンスもオンラインだったからでしょうね。

自見：昨年度まで実家から通っていたのですが、辛かったのは友人ができなかったことです。英語が苦手で、英語で課題を出された時に普通なら隣の席の人と確認し合うこともできず、授業の面でも不安を抱えることが続きました。クラスでの少人数の集まりがあっても、実家通いだと「親に（コロナを）うつす可能性がある」と思って参加できませんでした。

須貝：私は千葉から来たので、同じ高校出身の友人もいなくて、一人暮らしを始めても友人ができないという状態でした。1年生の時は基幹教育の課題協学で他学部の人と交流する機会もあったのですが、半分はオンラインになってしまって思うように親しくなれませんでした。2年生以降は同じ学部の友人もできましたが、もっと他学部の人と触れあえれば良かったなと感じています。

井上：1年生から学生寮にいたのであまり寂しいという思いはなかったのですが、2年生や3年生になって1年生が「入学式が楽しかった」とか「基幹教育が対面で良かった」と話しているのを聞くと、一番楽しそうな時期をオンラインで過ごしたことに寂しさを感じました。自分は部活で空手をやっているので、最初から楽しいこともたくさんありましたが、やはりちょっと寂しいですね。

久良木：先ほど話が出ましたが、私もパソコンに慣れていなくて困りました。オンラインで授業を受けようとしてもネットに繋がらないことがあってパニックになることもありました。

河邉：本当なら1年生の時にサークルの新歓（新人歓迎オリエンテーション）に参加して友人を作ったりサークル活動に参加したりできたのでしょうが、どのようなサークルがあるのかもわからなかったのは残念でした。

シュレスター：私も実家に住んでいて、大学の近くに住んでいる人たちの集まりに参加することもできず、孤独さを感じていました。大学の図書館にも気軽に通うこともできず、せっかくたくさんの蔵書があるのに利用できなかったのはとても残念でした。

園田：ありがとうございました。やはり人と会えないというのが一番辛かったようですね。まだまだ感染者数は減りませんが、重症化率は減りつつあり、この4月からは対面授業も増えました。教室が狭くて密になる授業はまだオンラインで行う形ですが、学生の間にはハイブリッド（対面授業をオンラインでも受けられる方式）を望む声もあると聞いています。ただ、対面授業の板書しているところを映すと送信するデータがかなり重くなるので、ハイブリッドで行う場合にはオンライン授業を受ける学生側のネット環境への配慮も必要であると考えています。

失われた学生生活をこれから取り戻して

園田：みなさんにはコロナ禍で失われたキャンパスライフを、これからぜひ取り戻してほしいと思っています。また学生時代にぜひ海外にも目を向けてほしいのですが、留学について質問や意見はありますか?

久良木：僕は2年生の時にオーストラリアのクィーンズランド大学とアメリカのサンノゼ州立大学にオンライン留学しました。英語を話すことに慣れてくるというか「下手でもいいから英語で伝えよう」とプラスのモチベーションを持てたことが一番大きかったです。

園田：クィーンズランド大学については今年8月から現地派遣を検討していたのですが、状況を踏まえて本部から「もうちょっと待った方がいい」とストップがかかりました。オーストラリアにしてもアメリカにしても現地派遣をできる限り早く復活させたいと思っています。特に北米ではアントレプレナーシップという起業家精神を学ぶ研修も行いますので、大きな刺激になるはずです。ぜひみなさんにもチャレンジしてほしいと思っています。

この取材は、新型コロナウイルス感染症対策に十分配慮した上で実施しています。

建築学科2年
シュレスター アカシさん

土木工学科3年
河邉 宏紀さん

土木工学科3年
久良木 隆晴さん

船舶海洋工学科3年
井上 雄介さん

量子物理工学科3年
須貝 優介さん

化学工学科3年
自見 壮二朗さん

応用化学科3年
中川 さくらさん

応用化学科3年
森田 修治さん

久良木：ヨーロッパの大学に留学するチャンスはありますか?

園田：継続的にヨーロッパの大学に派遣している例として，スウェーデンのルンド大学と行っている「ダブル・ディグリープログラム」があります。これは、九州大学と相手大学の両方の学位が取れる制度で修士の学生が最低1年は現地滞在することになります。それ以外にも、毎年数名程度の学部・院生が大学間交流協定を有する大学へ留学しています。

森田：現地派遣で長期間の留学となると、お金を貯めておかないといけないのでしょうか?

園田：長期留学の希望者には種々の奨学金制度があります。また，先ほど話したクィーンズランド大学やサンノゼ州立大学の短期研修は、約5週間の教育実習と滞在に一定の費用はかかりますが、工学部内に補助制度を設けており、円安などその時点のレートの影響はありますが、自己負担はだいたい10万円くらいです。

インターンシップと就職活動について

園田：就職活動やインターンシップについてはどう考えていますか?

久良木：僕は鉄道が好きなので国土交通省や鉄道総研（鉄道総合技術研究所）など、鉄道関連のインターンシップができればいいなと思っています。

井上：防衛省のキャリア組に入りたいと考えていて、説明会に行ったり、OBの話を聞いたりしています。

園田：インターンシップでは実際に企業に出向くことで、どういうところなのかを肌感覚で理解することが大事です。今後は大学院生を積極的にインターンシップに送り込んで、実社会のニーズが分かった上で研究を進めることができるようにしたいと考えております。特に博士課程の院生は企業から実際に給料をもらって2ヵ月間働くジョブ型インターンシップも始まっています。

河邉：学部で卒業して就職する場合と、大学院まで行って就職する場合では、就職活動に何か違いはあるのでしょうか?

園田：就職事情は分野によって異なりますが、特に化学系の企業では最近は大学院生しか採らないというところが増えてきているそうです。大学院まで進むと知識も増えるし、同じ研究をやっている友人と相談しながら就職活動ができる点は大きいと思います。

これからどのような研究をやってみたいか

園田：みなさんはこれから研究室に入って本格的な研究をやっていくわけですが、どのような研究をしたいか決まっている人は教えてください。

久良木：先ほどお話したように鉄道が趣味なので、新しくどこに鉄道を引くべきかといった交通計画に関する研究をやりたいと思っています。

園田：その点は日本国内では厳しいかもしれませんね。発展途上国であればそういう話はあると思いますが、日本は少子高齢化で人口も減少し、どこを廃線にするか議論される地域の方が多いですからね。

須貝：具体的には決まっていませんが、癌治療に関わる研究がやれたらと思っています。既存の治療ではX線とかが馴染みがあると思いますが、X線はターゲットに当てる前に正常な細胞にも影響を与えるので副作用が多いとされています。最近は陽子線とか重粒子線を使って、ターゲットに対してピンポイントにエネルギーが最大になるように照射するそうなので、そういう研究ができればいいなと考えています。

園田：最近は工学部の先生方が医学部の先生方と一緒に研究を進める「医工連携」が増えつつあります。化学はもちろんですが、機械系であれば医療ロボット、量子系であれば今あなたが話したような研究課題もあります。ぜひその思いを実現させてほしいですね。工学部の先生の中には工学博士と医学博士の両方を持っている方もいらっしゃいます。そういう先生が良い見本になると思います。ほかのみなさんも、今はまだやりたいことが漠然としていると思いますが、実際に研究をやり始めるときっと面白くなってくると思います。何よりもまずは研究を楽しむことが一番だと思います。

九大工学部を目指す高校生に伝えたいこと

園田：それでは最後に九州大学工学部を目指す高校生のみなさんに伝えたいことをひと言ずついただけますでしょうか。コロナ禍でキャンパスライフを過ごしたからこそ分かったことや感じたことなど、どのようなことでも結構です。

井上：コロナ禍でも、他の大学と比べて大学側の支援が大きかったと思います。他の大学ではサークル活動がまったく駄目だったのに九州大学はかなり融通をきかせてくれました。

森田：コロナとは関係ないですが、僕が自転車で事故に遭遇した時、警察官に学生証を見せたら優しくしてくれました（笑）。

中川：コロナ禍だからこそ、大学生活をどう過ごしたかによって卒業後の差が出るような気がします。高校生のみなさんには、学費を出してもらう以上、学費分以上の経験と知識を得られるように頑張ってほしいなと思います。

自見：コロナ禍では周りから刺激を受けづらい環境にありました。オンライン授業で友人から刺激を受けることが少なかった分、ニュースを見てどのような問題が注目されているのかとか、日常の中で刺激を見つけて自分自身を鼓舞することの大切さを学べたように思えます。

須貝：千葉の人は関東圏か北の方の大学に行く人が多いのが現状です。僕はこうして九州大学に来てみて、実家から遠くに離れたからこそ新しい友人もできたと感じています。関東エリアの人にも、もっともっと九州大学に来てもらいたいなと思っています。

園田：コロナ禍ではオープンキャンパスもオンラインになったのですが、かえって全国の高校生にアクセスしてもらえるようになりました。オンラインでの開催で距離という垣根が取り払われたのは良かったなと思いますね。

井上：高校生の頃は「九州大学は変な人が多そうだな、話しづらそうだな」という偏見を持っていました。入ってみると価値観も揃ってくるし、話しても楽しいです。当然ですが、自分の学科（船舶海洋工学）には船好きの人が多くて、授業の内容や将来のことで議論もできます。やはり好きな分野でとことん話ができるのはうれしいですし、先生方も「やりたいことをやれ」という感じで後押ししてくれます。

久良木：高校までは自分と同じ鉄道ファンと出会う機会が少なかったのですが、土木工学に入ってからは鉄道ファンの友人がいっぱいできました。自分の趣味を持っている人は必ず同じ仲間に出会えるし、勉強の面でも切磋琢磨できると思うので、ぜひ九州大学に来てください。

河邉：土木工学科では大学での授業だけではなく、実際に地域に足を運んで街づくりや川づくりのことを学ぶ機会があります。コロナ禍でそのような機会は少し減ったと言われますが、これからはまた増えてくることになると思うので、ぜひ地域の方々と話をしながら深く学んでほしいなと思います。

シュレスター：授業以外のことでも「何かやりたい」と思っている人がすごく多いと思います。僕の周りにも糸島・前原で本屋さんを開業した人がいますし、本当に志が高い人がたくさんいて刺激を受けています。九州大学はそういった人たちを支える環境をしっかり整えてくれているのが魅力だと思います。

園田：ありがとうございました。みなさんのお話で少しでも「九州大学工学部に入りたい」と思ってくれる高校生が増えることを願っています。

この座談会は、工学部ホームページにも掲載しています。

学生が紹介する動画サイトもあるよ!

Ⅰ群

HPはこちら▼ 動画はこちら▼

https://www.eecs.kyushu-u.ac.jp

電気情報工学科

Department of Electrical Engineering and Computer Science

●この学科のキーワード

- 人工知能
- データサイエンス
- 量子コンピューティング

論理と物理を基に、賢さ、快適さ、速さ、強さ、安全安心を創る技術者と研究者の入口

人間共生ロボット

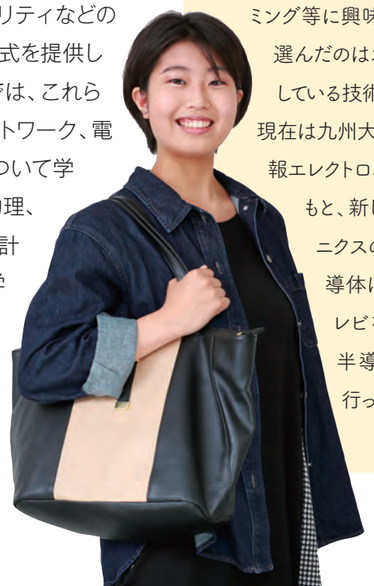
クリーンルームで安全安心の光技術を研究

機械学習による動画像中の物体追跡

Problem Based Learning によるロボット開発演習

この学科のポイント！

私たちは、現在、人工知能と人間が共創する新たなデジタル社会の創出に向かって突き進んでいます。未来の社会では、人工知能、メタバース、ロボティクス、量子コンピューティング、スマートモビリティなどの魅力的な技術が融合した新たな生活様式を提供していることでしょう。電気情報工学科では、これらの技術の基礎となる、計算機、通信ネットワーク、電子材料・デバイス、電気エネルギーについて学びます。電気情報工学科では、数学、物理、データサイエンスの基礎を修得した後、計算機工学、電子通信工学、電気電子工学の3コースに分かれてそれぞれの専門性を深めて行きます。皆さんも電気情報工学科で学び、未来への扉を開いてみませんか。



私の研究内容

小田 翔子さん
電気情報工学科４年
福岡県東筑高等学校出身

子供のときからゲームやコンピュータの仕組みやプログラミング等に興味を持っていました。電気情報工学科を選んだのはオープンキャンパスで学びの内容や研究している技術などが面白そうだと思ったからです。現在は九州大学大学院システム情報科学研究院 情報エレクトロニクス部門の准教授・佐道泰造先生のもと、新しいⅣ族半導体による次世代エレクトロニクスの構築について研究を行っています。半導体は皆さんが使っているスマートフォンやテレビなどに欠かせない電子部品です。この半導体の性能を向上させるための研究を行っています。

Ⅱ群

HPはこちら▼ 動画はこちら▼

https://www.zaiko.kyushu-u.ac.jp

材料工学科

Department of Materials

●この学科のキーワード

- 無機材料
- 脱炭素
- エネルギー

物質を理解して原料を精製・加工し、性質を解明するとともに機能を引き出した無機材料を作り出す技術者と研究者の入り口

自ら創り出した燃料電池材料の評価

1600℃の高温酸化物および
金属酸体の物理化学的性質の評価装置群

金属3Dプリンタにおける凝固組織形成機構および
欠陥形成メカニズムの解明とそれによる高機能部材の実現

チョクラルスキー法による新規熱電材料の単結晶作製

実験風景

私の研究内容

高木 優朋さん
材料工学科４年
福岡県明善高等学校出身

魚が切り身で泳いでいないように、この世に存在する道具・建造物などは、その全てが材料を加工し、組み合わせることで初めて利用できるようになります。ただ、組み合わせは自由ではなく、材料の強さや壊れやすさにより制限があり、どんなに面白いデザイン・役に立つアイデアでも安全性が認められなければ市場には出回りません。

もし材料そのものの性質が向上し、強く、壊れにくくなれば、今使っているモノの能力が底上げされ、それらを通した表現の幅が広がることになります。私たちの研究室では、材料が壊れるメカニズムを理解することで、より安全な材料開発を目指しています。

この学科のポイント！

これまでの文明の発展は材料の進化に先導されてきました。例えば、自動車社会は鉄鋼材料の大量生産に、航空機による高速輸送はジュラルミンの発明に、情報化社会は半導体の発明に、といった具合です。周期表には118個の元素しか掲載されていないにもかかわらず、これらの元素の無限とも言える組み合わせから、様々な性質をもった新材料が創り出されています。単に混ぜ合わせるだけでは無く、加熱、冷却、加工など様々な工程で新たな機能を附加しています。材料工学科では、このように身の回りにあるあらゆる「モノ」のもととなる材料や素材を創り出すための基盤を学び、モノ（材料）づくりを通して社会に貢献できるのが大きな魅力です。

Ⅱ群

HPはこちら▼

動画はこちら▼

https://www.eng.kyushu-u.ac.jp/chemistry.html

応用化学科

Department of Applied Chemistry

●この学科のキーワード

- 機能物質化学
- 分子生命化学
- ナノテクノロジー

化学で人々の暮らしを豊かにし、持続可能な社会の構築に資する学問を追究します

光学顕微鏡による資料観察
共焦点顕微鏡での画像解析
研究室での実験の様子

この学科のポイント！

応用化学は物質を自在に設計し、新しい機能と価値を創造する学問です。様々な分野と融合しながら、社会を支える学問として益々発展しています。本学科は機能物質化学コースと分子生命工学コースで構成されており、化学の分野を網羅する基礎科目に加えて、世界トップクラスの研究成果を生み出す教育・研究環境を整え、充実したカリキュラムを用意しています。機能物質化学コースでは主に高分子材料・無機材料を用いる触媒材料、複合素材、エレクトロニクス、ナノデバイスおよびそれらを支える理論解析を研究し、分子生命工学コースでは分子触媒、分子集積材料、エネルギー変換材料やバイオ医用材料、ヘルステクノロジーを研究しています。

私の研究内容

茂木 彩奈さん
応用化学科４年
和歌山県開智高等学校出身

リチウムイオン二次電池は高性能な二次電池として携帯電話の電源、電気自動車用電源などに用いられていますが、非常に高価で、発火や破裂などの事故が報告されています。

私が研究している「デュアル炭素電池」は、リチウムイオン電池に代わる新規二次電池として注目されています。「デュアル炭素電池」の電極に用いる黒鉛は資源的に豊富で、安価かつ環境への影響が小さいことが特長で、安全性にも優れています。私は、この新型電池で大きなエネルギー密度を達成するために、イオン性液体といわれる特殊な有機物の電解液への応用を研究しています。

Ⅱ群

HPはこちら▼

動画はこちら▼

https://www.chem-eng.kyushu-u.ac.jp

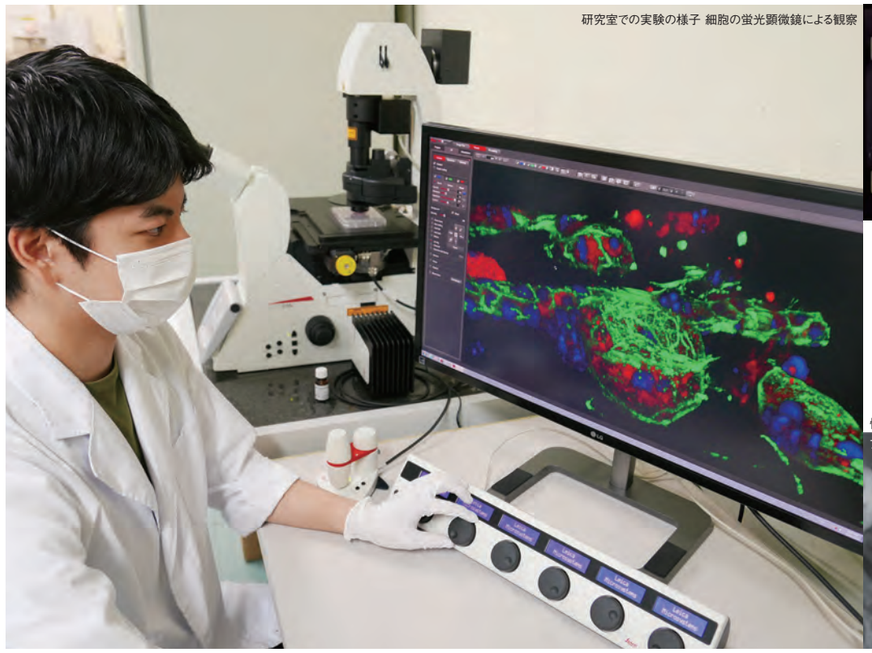
化学工学科

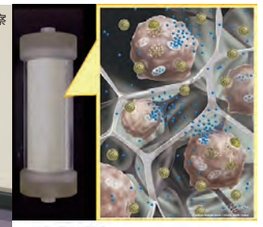
Department of Chemical Engineering

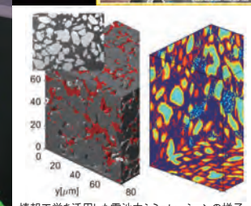
●この学科のキーワード

- ナノテクノロジー
- 環境・エネルギー
- バイオテクノロジー

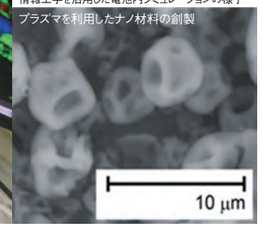
新材料　新現象を社会で実現化する力


研究室での実験の様子 細胞の蛍光顕微鏡による観察


球状の細胞組織体が充填された人工肝臓システム



情報工学を活用した電池内シミュレーションの様子



プラズマを利用したナノ材料の創製

私の研究内容

廣田 祐也さん
化学工学科４年
山口県山口高等学校出身

私は生体材料・医用工学講座の井嶋研究室で、主に肝臓についての研究をしています。肝臓の病気の治療法は移植がほとんどですが、ドナー不足が問題となっているため、他の方法を研究しています。例えば、臓器の構造を生体外で再構築することや、ナノファイバーを用いて組織を再構築することなどがあります。また、エマルションというものを用いて普通では皮膚を通過できない薬物を通過できるようにして、皮膚から体内へと薬物を届けることも研究しています。

この学科のポイント！

化学工学は、基礎研究を実社会で実用化するために欠かせない学問です。バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、環境、エネルギー、宇宙技術などの幅広い分野の発展に力を発揮しています。生命工学分野では、遺伝子工学を活かしたバイオ医薬品生産や再生医工学技術の開発など、工学的なバイオテクノロジーが展開されています。環境分野では、プラズマを用いた廃棄物処理技術、燃料電池、二酸化炭素分離など、実社会の問題を解決する先端研究が進められています。情報工学を活用し、化学プロセスをシミュレーションによって高性能化する研究も行われています。本学科では、様々な課題に適用できる化学工学の基礎を学べることが最大の魅力です。

Ⅱ群
Ⅲ群

HPはこちら▼　動画はこちら▼

https://www.ieng.kyushu-u.ac.jp

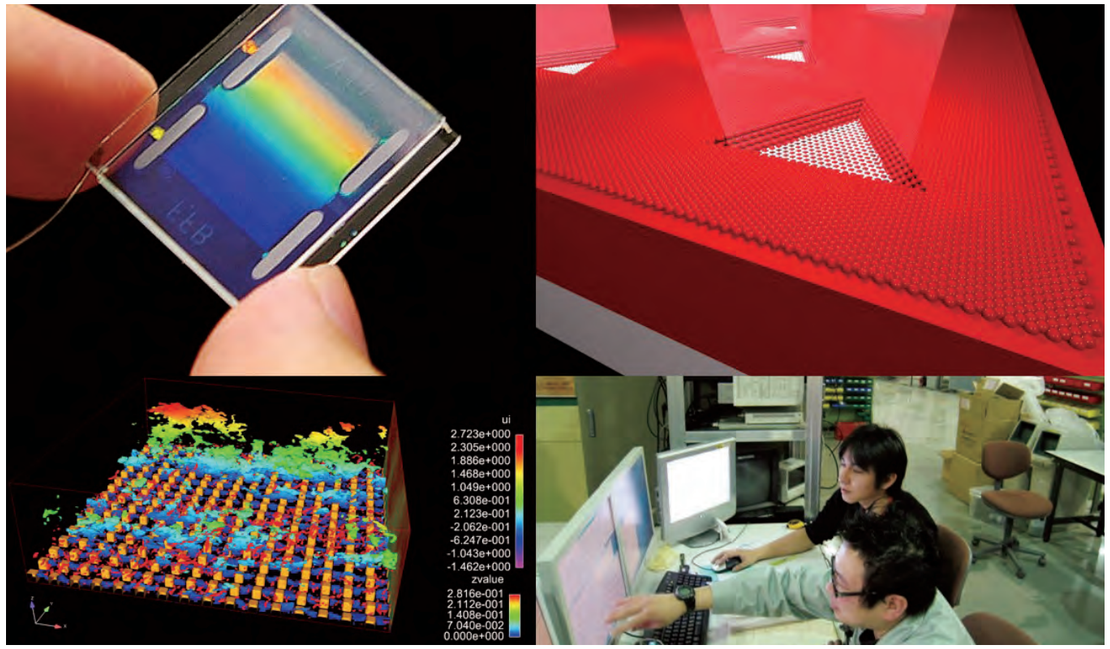
融合基礎工学科

Department of Interdisciplinary Engineering

●この学科のキーワード

- 分野融合
- 物質・材料工学
- 機械・電気電子工学

“工学系分野の融合”×“情報科学”を基軸とし、広い視野と実践的な行動力をもったAI時代のリーダーを創出



情報科学ベースの環境学、放射光測定、薄膜デバイス、原子層制御

この学科のポイント！

私たちが直面している現代社会の諸課題（例：グローバルな環境・エネルギー問題）は多種多様で複雑です。それらの解決には、1つの専門分野ではなく、複数の専門分野を融合し、さらに情報科学を活用することで、新しい概念、アイデア、イノベーションを生み出せるリーダーが求められています。本学科の特徴は、複数の工学系分野を「融合」した学びにあります。物質科学と材料工学を融合した「物質材料コース」（Ⅱ群）と機械工学と電気電子工学を融合した「機械電気コース」（Ⅲ群）の2つのコースを有し、最新のAIやデータ科学も駆使しながら、問題解決型のアプローチにより、持続可能な未来社会の実現に向けた課題に果敢に挑戦しています。

私の研究内容

岩田 愛紗さん
エネルギー科学科（現：融合基礎工学科※）4年
※融合基礎工学科は令和3年度新設
沖縄県昭和薬科大学附属高等学校出身

入学当初はクリーンエネルギーに興味があったのですが、物理・化学の両方の知識が得られる学科で学ぶうちに幅広く興味をもつことができました。現在はメチロバミンという天然化合物の合成を研究しています。人工的に合成が可能になれば、肌に優しい日焼け止めなどへの応用が期待されています。今の研究室で頑張っている研究の経験を生かすためにも、将来は化粧品や香料に携わる仕事に就ければいいなと思っています。

Ⅲ群

HPはこちら▼　動画はこちら▼

https://www.mech.kyushu-u.ac.jp/

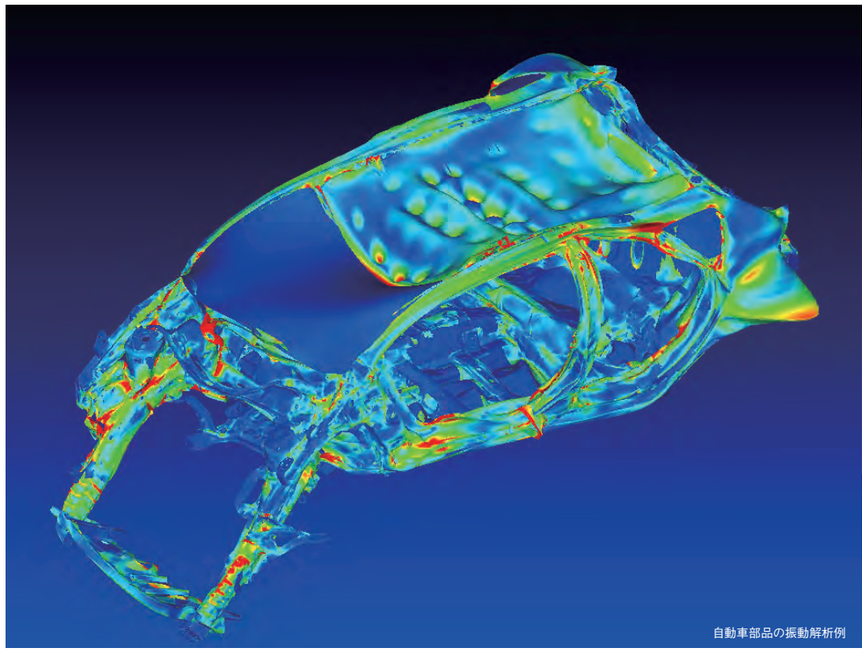
機械工学科

Department of Mechanical Engineering

●この学科のキーワード

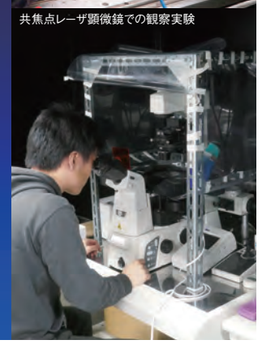
- 力学
- しくみ
- モノづくり

あらゆるアイデアや技術を形あるものにする機械技術者と研究者の入口



自動車部品の振動解析例

大型放射光施設SPring-8での高分解能X線トモグラフィー実験



共焦点レーザ顕微鏡での観察実験

私の研究内容

谷澤 健太さん
機械工学科４年
東京都成城高等学校出身

精密加工学研究室に所属し、主に歯車を対象として高速・高精度CNC3次元測定器の開発を行っています。針の先に小さな球を取り付けたプローブというものをコンピュータで制御し、その先っぽを歯車の側面に添わせて滑らかに移動させることで歯車の正確な形状を取得しています。歯車の寸法精度を高速・高精度に評価できるようになることで、歯車を用いるさまざまな機械の効率を高めることが期待できます。

この学科のポイント！

機械工学は、スマートフォン、コンピュータ、家電製品、空調機、自動車、飛行機などの身近なモノ、ロボット、医療器械、建設機械、工作機械、食品機械など専門分野で活躍するモノ、発電所や燃料電池などエネルギーを供給するためのモノやシステム、使われている部品や素材など、あらゆるモノを作るための基盤となる学問です。具体的には材料力学、機械力学、流体力学、熱力学・伝熱学、設計法、制御、加工技術などの基礎知識と概念を学修します。さらに、生体工学や水素利用技術など、生物・医療やエネルギー・材料など従来の枠を越えた分野も学ぶことができ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる技術者や研究者の基礎を築くことができます。

Ⅲ群

HPはこちら▼　動画はこちら▼

https://www.aero.kyushu-u.ac.jp

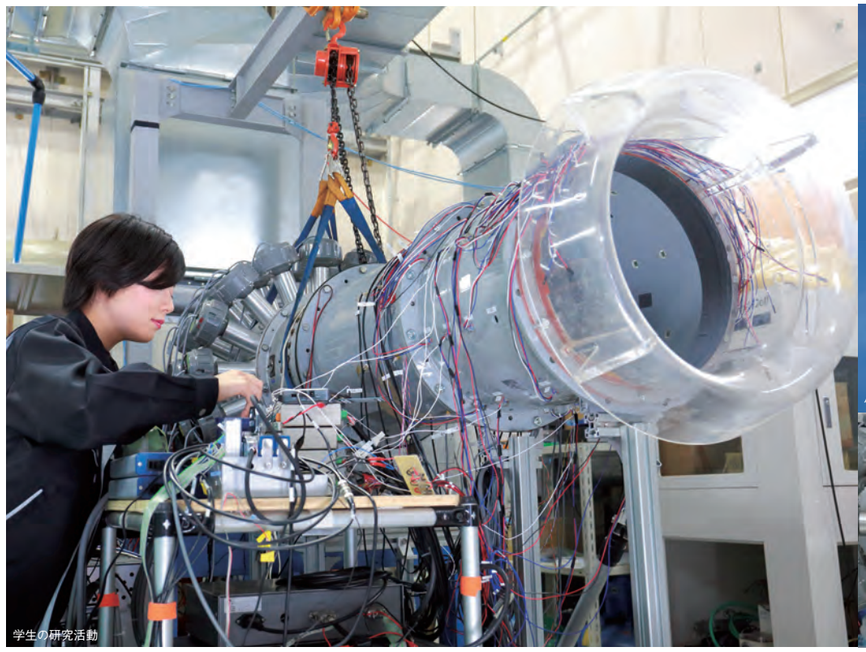
航空宇宙工学科

Department of Aeronautics and Astronautics

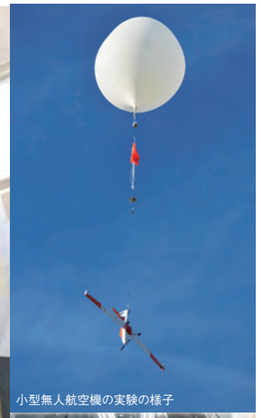
●この学科のキーワード

航空　宇宙　夢

最先端の知識と技術を結集し、空と宇宙のフロンティアを切り拓く夢へ踏み出す第一歩



学生の研究活動



小型無人航空機の実験の様子

航空機エンジンの騒音制御実験

この学科のポイント！

日本の航空宇宙開発は近年急速に進展しており、はやぶさ1・2号機による小惑星探査は記憶に新しく、次期基幹ロケットH3や月や火星を目指す深宇宙ミッションも進行しています。また、超音速旅客機や電動航空機といった次世代モビリティの開発も活発に進められています。

本学科は、日本人初の国際宇宙ステーション船長となった宇宙飛行士の若田光一さんをはじめ、宇宙開発や航空産業の第一線で活躍する人材を数多く輩出しています。また、JAXAや企業、海外との共同研究も盛んに行っており、研究者・技術者としての道を踏み出すには最適の場所です。皆さんも航空宇宙工学科で学び、空や宇宙の夢を追求し、現実に変えてみませんか？

私の研究内容

アブデルモニエム ガバルさん
航空宇宙工学科４年
エジプト出身

私が所属する研究室は、航空機をはじめとする物体周りの空気の流れを検討する「流体力学」に関して、さまざまな物理的な現象とその工学的な応用を幅広く研究できる研究室です。私はこの研究室で物体の後部形状変更による流体制御に関する研究をしています。人が風の逆方向に歩く時、走る時に「抗力」という逆方向の力を感じます。航空機も同じで、進行方向に空気の壁があるようなもの。物体がこの壁を通過する時に発生する不要な力を数値流体力学（CFD）の解析プログラムで解析し、CADソフトウェアを使用して減らす方法を調べる研究です。航空宇宙工学科は、航空機や宇宙機の開発に不可欠です。

Ⅲ群

HPはこちら▼　動画はこちら▼

https://www.qpn.kyushu-u.ac.jp

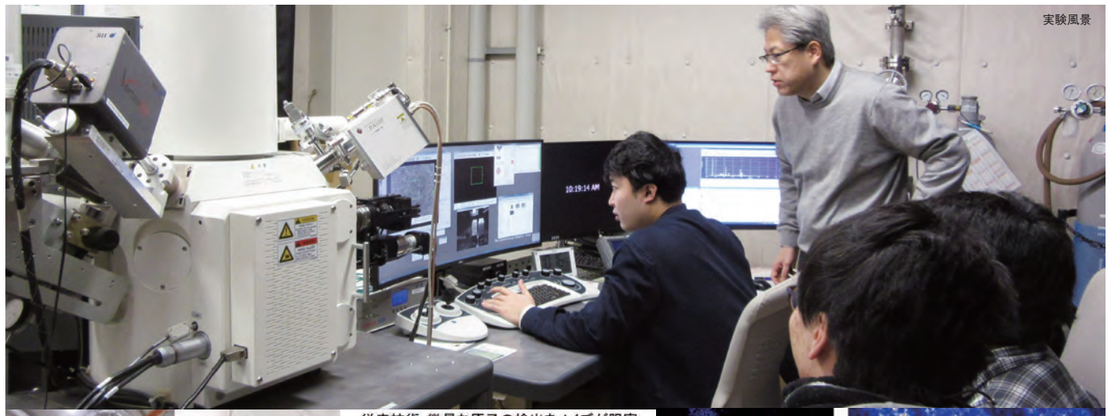
量子物理工学科

Department of Applied Quantum Physics and Nuclear Engineering

●この学科のキーワード

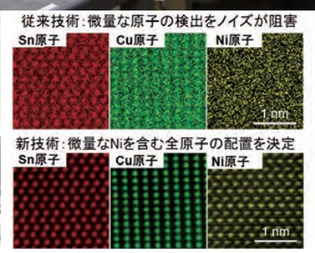
原子力工学　加速器・電子顕微鏡　応用物理学

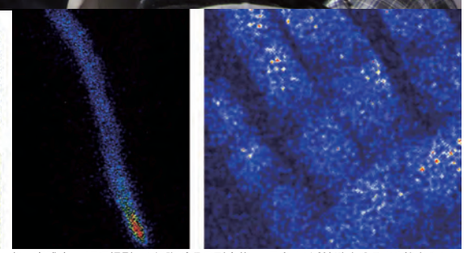
目に見えないミクロな物理現象の解明と応用で、人類社会の発展に貢献する技術者と研究者の入口



実験風景

超高圧電子顕微鏡と世界最高水準の計測感度をもった分析電子顕微鏡



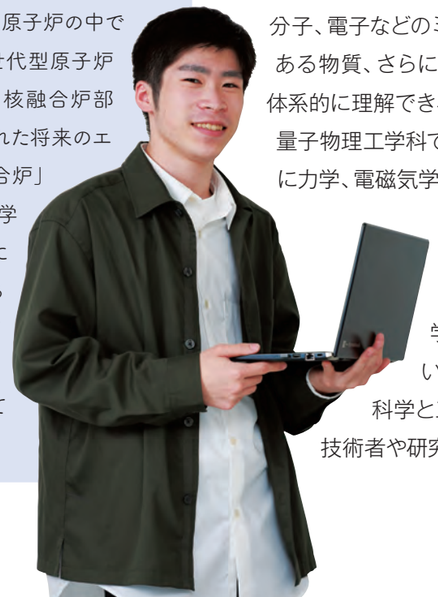


超々高感度カメラで撮影した細胞呼吸の副産物として生じた活性酸素分子から放出された光量子（植物根と人の掌）

私の研究内容

川井 大海さん
量子物理工学科４年
福岡県福岡高等学校出身

私は現在、原子炉物理学及び核融合理工学研究室に所属しています。原子炉部門では、原子炉の中で安全性が高いと評価されている次世代型原子炉「高温ガス炉」の研究をしています。核融合炉部門では、クリーンでかつ安全性に優れた将来のエネルギー源として期待される「核融合炉」の研究を行っています。この学科で学ぶことで、エネルギー問題がいかに切実で、かつ解決困難なものであるか思い知らされます。学科での学びを生かし、将来的にはエネルギー問題の解消の一助となれればと考えています。



この学科のポイント！

近代物理学の新しい学問体系である量子力学と相対性理論の出現はそれまでの物質や時間・空間に対する認識を一新させました。これにより原子核、原子、分子、電子などのミクロな実体から、その集合体である物質、さらには宇宙という巨大な世界までを体系的に理解できるようになりました。

量子物理工学科では量子力学や相対性理論とともに力学、電磁気学、熱力学、統計力学などの現代物理学を構成する基礎的学問を系統的に学修します。その上で応用物理学、量子ビーム、加速器工学、原子核/原子力工学などについても学んでいき、新しい時代の科学と工学を自ら切り拓いていく力強い技術者や研究者を育成します。

Ⅳ群

HPはこちら▼ 動画はこちら▼

https://www.nams.kyushu-u.ac.jp

船舶海洋工学科

Department of Naval Architecture and Ocean Engineering

●この学科のキーワード

- 海洋再生可能エネルギー
- カーボンニュートラル型輸送船
- 建造 DX（デジタルトランフォーメーション）

造船技術の発展と持続的な海洋開発を担い、海と人類の共生に貢献できる技術者・研究者への扉

高速回流水槽を使った船体抵抗試験

船舶運動性能試験水槽（長さ38.8m×幅24.4m）

大型円筒部材の疲労強度試験

この学科のポイント！

国土を海に囲まれた日本の発展には、社会・生活を支えるエネルギー・資源の調達や輸出のための海上輸送、資源開発など海洋の有効利用が必要です。本学科は構造・流体・材料・制御等の基礎的な分野だけでなく、巨大な船や海洋構造物を開発・設計・生産する総合工学を学ぶ特色あるカリキュラムを有します。実地で学ぶ工場の見学・実習、船一隻を設計する演習など多面的に学びます。コンピュータを使ったプログラミング・シミュレーション・設計・AIなどIT教育も豊富です。

卒業生への評価は高く、求人数は多く、輸送機器・重工業の他、多様な企業や研究機関に就職しています。多くの学生が大学院に進学し、高度な勉学と研究に励んでいます。

私の研究内容

稲岡 諒朗さん
船舶海洋工学科４年
熊本県熊本高等学校出身

私はシステム計画学研究室に所属し、人工知能やロボット技術を用いた船舶海洋分野の計画支援を目的とした研究を行っています。

現在は設計者が手動で行っている船舶の配管設計作業をAIや組合せ最適化等の手法により自動化する『AIを利用した配管設計自動化』、無線LANを活用した低コストな位置推定システムを開発し、造船所内のモノの位置を把握しやすくする『無線LAN電波強度分布を利用した屋内位置検出システム』、船殻の洗浄や塗装作業等を行うロボット開発を目的とした『作業支援のための船体構造物壁面移動ロボット』の研究などがあります。

Ⅳ群

HPはこちら▼ 動画はこちら▼

https://www.mine.kyushu-u.ac.jp

地球資源システム工学科

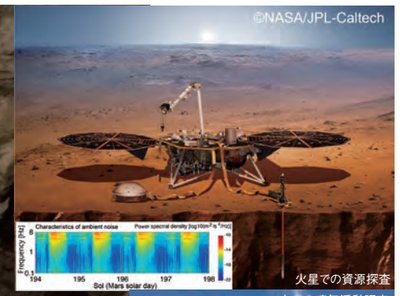
Department of Earth Resources Engineering

●この学科のキーワード

- 資源・エネルギー
- 地球環境
- 国際性

地球規模の資源・エネルギー・環境問題の解決に向けて世界トップレベルの教育・研究拠点で学ぶ

国際フィールド調査　チェコ国Jeronym銀鉱山跡



火星での資源探査

火山の噴気活動調査

私の研究内容

今若 珠月さん
地球資源システム工学科４年
島根県松江北高等学校出身

エネルギー資源工学研究室に所属しています。地熱発電のようにすでに実用化されているものから、海底資源など実用化が難しいとされるものまで幅広い研究が行われています。また、エネルギー資源そのものに関する実験だけでなく、ドローンを用いた探査技術に関わる研究や、集めた膨大なデータを機械学習によって処理する研究なども行われており、興味のあることについてなんでも探求できる自由な研究室となっています。

この学科のポイント！

地球資源システム工学科では、金属鉱物、石油・天然ガス、石炭、地熱など、私たちの生活を支える様々な資源の成因、探査、開発、採掘、処理、リサイクルを幅広く学び、それらの新技術を研究できます。また、CO_2回収・利用・地中貯留技術や、深海底（メタンハイドレートやレアメタルなど）および月や火星（水やレゴリスなど）など、人類にとってのフロンティアにおける資源探査・開発技術も研究できます。3年次の国内外インターンシップでは、スケールの大きな資源開発の醍醐味を体感できます。留学生との交流や海外でのフィールドワークおよび学会発表などを通じて言語力や国際性を伸ばし、世界で活躍する資源人材の素養を身に付けられます。

Ⅳ群

HPはこちら▼

動画はこちら▼

https://www.civil.kyushu-u.ac.jp

土木工学科

Department of Civil Engineering

●この学科のキーワード

- 地図と歴史に残る仕事
- 安全・安心・幸福（well-being）な暮らし
- グリーンインフラ

サステナブルで豊かな国土や都市を構築するための技術を学ぶ

上西郷川 里川の再生/土木学会デザイン賞最優秀賞
かつて水際に近づくことも困難だった上西郷川を、生態保全と防災を両立する、自然豊かで多くの人に利用される川に再生しました。

この学科のポイント！

土木工学(Civil Engineering)は、私たちが安全・安心で幸福（well-being）な暮らしを営むために不可欠な、都市、道路、橋、堤防、上下水道、鉄道、港などの国土基盤を整備・保全するための幅広い学問です。土木技術は人類の歴史とともに発展してきました。激甚化する災害への備え、グリーンインフラを活用した都市と自然の調和、ビッグデータの活用や自動運転社会への対応など、新しい技術を取り入れ、50年、100年後の未来を見据えた持続的で豊かな国土や都市の構築を目指しています。

環境・社会・経済の問題が山積した変化の激しい現代社会で、幅広い技術力と多様なアイディアを結びつけ、市民の暮らしを豊かにできる土木技術者が必要とされています。

私の研究内容

川浦 悠梨乃さん
土木工学科４年
宮崎県宮崎西高等学校出身

道路斜面の維持管理に必要な情報を、GIS(地理情報システム)を使って統一的に管理し、国道沿い斜面の維持管理の効率化を目標に研究を行っています。具体的には、定期点検で管理されていない斜面のなかで「落石・崩壊」の危険性が高い斜面を、AIを用いて抽出しています。また、定期点検で管理されている斜面については、過去の点検結果をまとめたデータベースからAIにより斜面の安全性を評価する手法を開発しています。将来は九州大学で学んだことを生かして、地元・宮崎の土木に貢献したいと考えています。

Ⅴ群

HPはこちら▼

動画はこちら▼

https://www.arch.kyushu-u.ac.jp

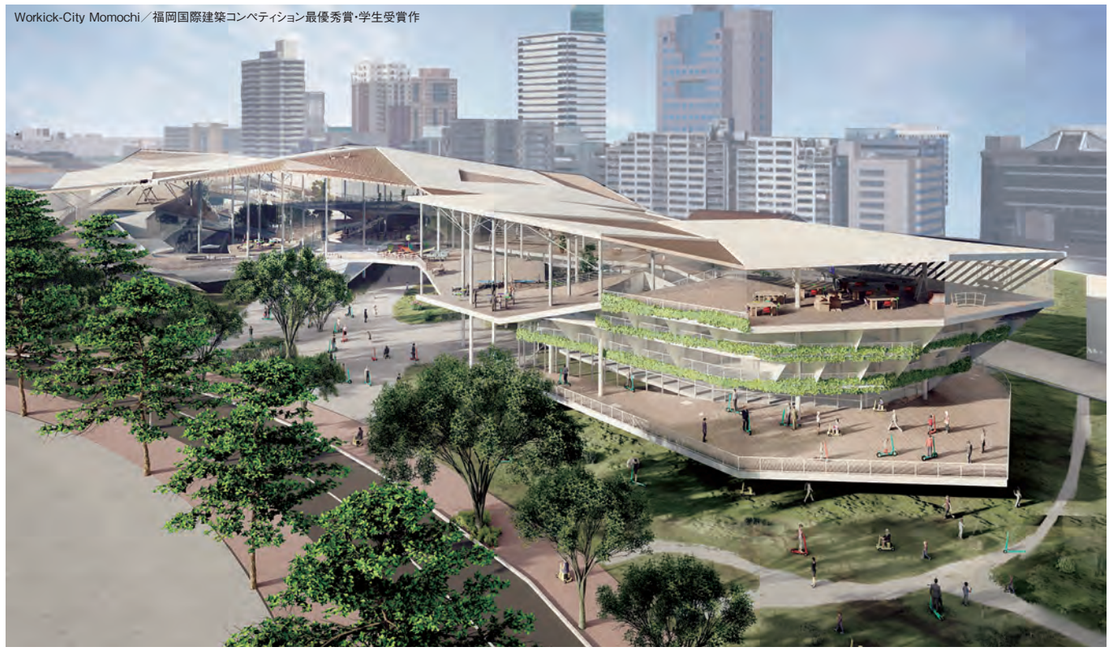
建築学科

Department of Architecture

●この学科のキーワード

- 都市建築デザイン
- SDGs
- 防災・減災

住宅から都市に至る人間の多様な生活に密着した空間を造り出す建築家や技術者、研究者を養成します。



Workick-City Momochi／福岡国際建築コンペティション最優秀賞・学生受賞作

私の研究内容

川村 まいさん
建築学科４年
福岡県明善高等学校出身

建物を設計するような意匠系のイメージが強いかもしれませんが、私が所属する尾崎・小原研究室では、建物内部の住環境について研究を行っています。どうすれば人は建物内部で「心地よさ」を感じるのか。都市や建築で生じる熱や空気の移動現象を解析して、省エネルギー問題なども視野に入れて研究を行っています。日頃建物内部でなんとなく感じている心地よさが、理論的に解析され、新しい住環境に繋がっていくことに面白みを感じます。

また、企業とのタイアップ研究もあり、自分たちの研究内容が、社会の発展に繋がっているのを知ると、やりがいを感じます。

この学科のポイント！

建築学は技術的問題から社会的・文化的問題まで広い領域に関わっており、建築・都市の分野に携わる者には、多様な要素を総合的にまとめる能力に加えて、芸術的な造形能力が求められます。建築学科では、建築・都市の文化と歴史を顧み、建築・都市を理論的に計画し、具体的な形に設計する方法、快適で健康的な空間をつくる環境技術、丈夫な建物をつくる構造技術、建築の材料と施工技術などについて研究と教育を行っています。

本学科のカリキュラムは、建築学に関わる諸知識を体系的・理論的に学ぶ講義、具体的なデザイン手法を習得する設計演習、専門知識を体得する実験などでバランスよく構成され、国際社会の第一線で活躍する人材を養成します。

Circle【創造工房】

PLANET-Q

「放課後は、宇宙開発を。」をモットーに、宇宙開発に関する技術開発や教育活動を行っています。プロジェクトには比較的安価かつ安全性の高いハイブリッドロケット、成層圏でミッションを行うスペースバルーン、自律制御でゴールを目指す小型模擬衛星CanSatなどがあり、学年や学部の枠を超え、一丸となって活動に取り組んでいます。

動画はコチラ☞

●2019　種子島ロケットコンテスト CanSat部門準優勝･安全賞
●2021　3年ぶりとなる海打ちでの打ち上げと回収に成功
●2022　種子島ロケットコンテスト モデルロケット定点滞空部門優勝

学生フォーミュラ計画

学生フォーミュラ日本大会での好成績を目指し、小型レーシングカーの設計･製作･走行すべてを行っています。CADを用いた設計から切削･溶接、マシンのコスト管理や仮想の販売戦略の構築まで、総合的にものづくりに取り組んでいます。スポンサー企業と関わったり、サーキットでの展示活動を行ったりと活動内容は多岐にわたります。

動画はコチラ☞

●2017　94チーム中74位
●2018　92チーム中70位
●2019　92チーム中71位

ロボコンチームKURT

九州大学の有志学生によるロボット競技チームです。メインとなる活動はロボットの制作で、設計から制御まですべて自分たちで行います。例年5月から6月に開催される「NHK学生ロボコン」への出場をはじめ、夏休みには「九州夏ロボコン」を主催。秋の「サイエンスワールド」への出展も含め、メンバー一丸でロボットの制作を行います。

●2018　NHK学生ロボコン　ベスト4･アイデア賞･特別賞
●2019　NHK学生ロボコン　ベスト4･デザイン賞
●2020　キャチロボバトルコンテスト　ファイナリスト進出

ヒューマノイドプロジェクト

二足歩行ロボット格闘競技大会であるROBO-ONEでの優勝を目指して日々活動に取り組んでいます。基本的にロボットの設計･加工･制御を一から行っており、ロボットの構造、設計、回路、プログラミングといった様々な分野の知識を身につけることができるのが特徴です。普段の大学生活では決してできない貴重な体験ができるサークルです。

●2020　ROBO-ON Light　準優勝
●2020　ヒューマノイドカップ　2機体優勝･3位
●2021　ROBO-ONE　ベスト4

Study abroad【工学部生のための留学プログラム】

ELEP（イーレップ）:Engineering Leaders English Program

米国カリフォルニア州「サンノゼ州立大学 I-Gateways」での英語研修を中心に、起業家やベンチャーキャピタルの方々の講義やシリコンバレーにある大学やハイテク企業等へのフィールドトリップ等に参加しながら英語力をブラッシュアップする工学系学生向けの5週間の短期プログラムです。英語力アップに加えて、アントレプレナーシップ（起業家精神）の実態に触れ、イノベーションが起こる仕組みを学ぶことができます。（※コロナウイルスの影響により2021年度はオンラインで実施）

Q²PEC（キューペック）: Qshu-Queensland Program for English Communication

オーストラリア、ブリスベンにあるTAFE(Technical and Further Education)において世界各国からの留学生に混じって英語研修、ならびにクイーンズランド大学の工学系特別講義や研究室訪問を体験できる5週間の短期プログラムです。実践的な英語力を向上させるとともに、グローバルマインドの涵養や長期間の学位留学に向けたモチベーションアップも目指せます。

（※コロナウイルスの影響により2021年度はオンラインで実施）

ELEP留学体験談

工学府 水素エネルギーシステム専攻
水素エネルギーシステムコース 修士1年
唐津東高等学校（佐賀県）出身
中村 省吾さん　留学先:サンノゼ州立大学（アメリカ）

オンラインでも価値ある留学プログラム

ELEPは2年生のときにポスターを見て知り、当時から魅力を感じていました。金銭的理由で参加を見送っていましたが、今回オンライン形式で費用負担も少なかったため参加することに決めました。

ELEPで最も刺激になったことは、シリコンバレーで働く方々の講演を通してアメリカと日本の考え方の違いを知り、経験に基づくアドバイスを頂いたことです。現地の優秀な学生の就職に対する考え方も知ることができ、自身の将来ややりたいことをより深く考えるきっかけになりました。また、今回の参加で英語で自分の考えを話したり、他の人の意見を聞いたりして、英語を使う楽しさを感じました。

Q²PEC留学体験談

工学部 機械航空工学科 機械工学コース 3年
宇部高等学校（山口県）出身
松原 響子さん
留学先:クイーンズランド大学付属語学学校ICTE-UQ（オーストラリア）

オンラインで自分の英語に自信を持てた

留学で最も印象に残ったことは、英語を勉強する方法がたくさん設けられていたことです。オンラインでの留学だったため、大学の授業のような留学になるだろうと予想していたのですが、クラスメイトとのディスカッションはもちろんのこと、双六や早押しクイズをしたり、動画を見たり、歌を聞いたりして、留学であるにもかかわらず英語を遊びのように学べました。英語を学ぶ意欲も湧きましたし、とても楽しかったです。

MESSAGE OB･OGメッセージ

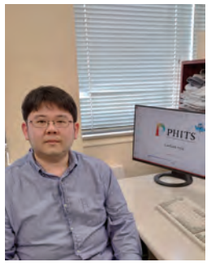
徳丸 祥一朗さん

日本工営株式会社 コンサルティング事業統括本部
交通運輸事業本部 道路事業部 道路橋梁整備部
（工学府 建設システム工学専攻 2012年3月修了 工学部 地球環境工学科 卒業）

開発コンサルタントとして、発展途上国における道路・橋梁整備事業の計画、調査、設計、施工監理業務を行っています。現在は、アフリカのケニアに架ける長大橋の詳細設計業務に従事し、総勢70名を超えるチームのチームリーダー代理として業務全体を統括する役割を担っています。相手国政府に対して英語で橋梁設計技術を説明する機会が数多くあり、大学院修士課程で学んだ英語でのコミュニケーション力がとても役立っています。

安部 晋一郎さん

国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
原子力科学研究部門 原子力科学研究所 原子力基礎工学研究センター
化学･環境･放射線ディビジョン 放射線挙動解析研究グループ
（総合理工学府 先端エネルギー理工学専攻 2013年3月修了 工学部 エネルギー科学科 卒業）



目に見えない放射線の挙動を解析する計算コード"PHITS"の開発に携わるとともに、放射線が電子機器に及ぼす影響について研究しています。PHITSは原子力分野に限らず、医療や宇宙･地球惑星科学など幅広い分野で利用されており、開発に携わることで多くの方々に貢献できる点が魅力です。現在の研究は九州大学で取り組んだ研究テーマの発展形であり、大学で得た知識や技術、人との繋がりは現在の仕事の礎となっています。

池田 沙織さん

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
追跡ネットワーク技術センター 軌道力学チーム 研究開発員
（工学府 航空宇宙工学専攻 2013年3月修了 工学部 機械航空工学科 卒業）

JAXAでは、主に低軌道帯のスペースデブリをレーダー、静止軌道帯を光学望遠鏡にて観測し、データを解析システムによって処理する宇宙状況把握（SSA）システムを運用しています。私は、そのSSAシステムによる観測･データ解析や、人工衛星とスペースデブリとの衝突回避運用を担当しています。九州大学では、講義や研究室での活動を通して、「軌道力学」や超小型衛星の開発･運用に関して学びました。身に着けた知識や経験は、現在の仕事でも大いに役立っています。

大西 俊輔さん

株式会社QPS研究所 代表取締役社長 CEO
（工学府 航空宇宙工学専攻 博士課程 2013年9月修了 工学部 機械航空工学科 卒業）

福岡で宇宙開発を行っているQPS研究所は、恩師である九州大学名誉教授の八坂哲雄先生等が宇宙産業を根付かせるために2005年に福岡市に創業しました。私はその恩師の想いを引き継ぎたく、QPS研究所に入社し、半年後に代表取締役社長として会社を継ぎ、技術面より経営を行うとともに人工衛星開発プロジェクトの意志決定とその実行をしています。大学、大学院で学んだことすべてが 現在の仕事に生きています。

国生 昌美さん

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
九州支社　総合計画部
（2003年3月修了 工学部 地球環境工学科 卒業）

建設コンサルタントとして、主に、道路事業に関する環境影響評価、生活環境保全、自然環境保全の業務を担当しています。公共事業（インフラ整備）に携わっているため、社会的に役に立っていると考えるとやりがいを感じます。建設コンサルタントでは課題解決能力が求められますが、課題に対して問題点を洗い出し、解決策を検討するという大学の研究での取り組み方や取り組み姿勢が、今の仕事にも生かされています。

ダニレフスキ 絵里子さん

Inhabit Australasia Pty Ltd
Building Physics + Sustainability
（人間環境学府 空間システム専攻 2012年3月修了 工学部 建築学科 卒業）

建物の開発や再開発に関し、環境や人に配慮した設計･仕組みを、建物のエネルギーシミュレーション、光環境の分析、湿熱環境解析などを元に提案するとともに、最近ではネットゼロカーボンやカーボンニュートラルに関するコンサルティングなどにも取り組み始めています。総合的なものの見方や意見･提案の伝え方は学生時代に培われたと思いますし、先生方、先輩、同級生、後輩との繋がりは今でも意見交換や学びの場となっています。

主な就職先リスト

電気情報工学科

【学部卒業後の主な就職先】
情報通信機械器具、電子部品・デバイス・電子回路製造業
ファナック
富士通
東京エレクトロン
ソニーLSIデザイン
情報通信業
アドソル日進
ソフトバンク
楽天
アイシン・ソフトウエア
オリンパス
楽天モバイル
アマゾンウェブサービスジャパン
NTTコムウェア
輸送機械器具製造業
トヨタ自動車
スズキ
マツダ
鉄鋼業
JFEスチール
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力
関西電力
サービス業
アクセンチュア
サイバーエージェント
西日本高速道路

【修士課程修了後の主な就職先】
情報通信機械器具、電子部品・デバイス・電子回路製造業
ソニー
村田製作所
NEC
富士通
日立製作所
三菱電機
キオクシア
東京エレクトロン
安川電機
ウエスタンデジタル
情報通信業
ソフトバンク
NTTドコモ
KDDI
ヤフー
野村総合研究所
コーエーテクモゲームス
楽天グループ
輸送機械器具製造業
トヨタ自動車
日産自動車
本田技研工業
業務用機械器具製造業
コナミアミューズメント
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力
運輸業
JR東海

【博士課程修了後の主な就職先】
情報通信機械器具、電子部品・デバイス・電子回路製造業
日立製作所
ソニーLSIデザイン
キオクシア
東京エレクトロン
情報通信業
KDDI
KDDI総合研究所
チームAIBOD
富士通研究所
SEC Research Institute
とめ研究所
教育、学習支援、医療、福祉、複合サービス業
九州大学ほか大学法人
大分工業高等専門学校
海外の大学
日本学術振興会
建設業
三菱日立パワーシステムズ
西日本プラント工業
輸送機械器具製造業
モリタホールディングス
食料品、飲料・たばこ・飼料製造業
森永乳業

材料工学科

【学部卒業後の主な就職先】
鉄鋼業、非鉄金属・素材
山陽特殊製鋼
日本製鋼所
日本タングステン
輸送用機械器具
トヨタ自動車
スズキ
電気・情報通信機械器具
京セラ
運輸業
ANA
電気・ガス・熱供給・水道業
中部電力
高等教育機関・公務
公務員

【修士課程修了後の主な就職先】
鉄鋼業、非鉄金属・素材
日本製鉄
JFEスチール
神戸製鋼所
大同特殊鋼
山陽特殊製鋼
日鉄ステンレス
住友電気工業
SUMCO
TOTO
UACJ
三井金属鉱業
AGC
愛知製鋼
日本精工
輸送用機械器具
日産自動車
スズキ
本田技研工業
トヨタ自動車九州
デンソー
電気・情報通信機械器具
キヤノン
三菱電機
パナソニック
日立製作所
東京エレクトロン
ソニー
汎用・生産用・業務用機器
三菱重工業
ダイキン工業
凸版印刷
三菱マテリアル
村田製作所
キオクシア

【博士課程修了後の主な就職先】
鉄鋼業、非鉄金属・素材
神戸製鋼所
大同特殊鋼
山陽特殊製鋼
日本製鉄
JFEスチール
日本精工
住友電工
住友金属鉱山
SUMCO
電気・情報通信機械器具
日立製作所
ミネベアミツミ
TDK
ウエスタンデジタル
高等教育機関・公務・学術研究
九州大学ほか大学法人
海外の大学
産業技術総合研究所
日本原子力機構
汎用・生産用・業務用機器
三菱重工業

応用化学科

【学部卒業後の主な就職先】
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
アドバンテック
建設業
鴻池組
卸売業、小売業
双日
高等教育機関・公務
公務員

【修士課程修了後の主な就職先】
化学工業、石油・石炭製品
三井化学
三菱ケミカル
住友化学
花王
旭化成
東ソー
積水化学工業
資生堂
三菱ガス化学
住友ベークライト
AGC
ニプロ
クラレ
武田薬品工業
久光製薬
アステラス製薬
小林製薬
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
三菱マテリアル
日東電工
東レ
ADEKA
電気・情報通信機械器具
パナソニック
京セラ
キヤノン
食料品、飲料製造業
味の素
ヤクルト

【博士課程修了後の主な就職先】
化学工業、石油・石炭製品
三井化学
三菱ケミカル
富士フィルム
花王
旭化成
中外製薬
アステラス製薬
第一三共
三菱ガス化学
積水化学工業
出光興産
JSR
カネカ
日産化学
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
日本ゼオン
住友金属鉱山
電気・情報通信機械器具
シスメックス
食料品、飲料製造業
JT
高等教育機関・公務
九州大学ほか大学法人
海外の大学

化学工学科

【学部卒業後の主な就職先】
化学工業、石油・石炭製品
小林製薬
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力
食料品、飲料製造業
久原本家
高等教育機関・公務
公務員

【修士課程修了後の主な就職先】
化学工業、石油・石炭製品
旭化成
AGC
アステラス製薬
出光興産
宇部興産
花王
カネカ
JSR
昭和電工
日鉄ケミカル&マテリアル
住友化学
住友ベークライト
中外製薬
東ソー
富士フイルム
三井化学
三菱ケミカル
日本触媒
クラレ
ニプロ
日本ゼオン
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
日本製鉄
東レ
電気・情報通信機械器具
パナソニック
汎用・生産用・業務用機器
三菱重工業
建設業
日揮
東洋エンジニアリング
食料品、飲料製造業
味の素
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力
学術研究、専門・技術サービス
化学及血清療法研究所

【博士課程修了後の主な就職先】
化学工業、石油・石炭製品
味の素
アステラス製薬
大塚製薬
杏林製薬
武田薬品工業
中外製薬
ニプロ
高等教育機関・公務・学術研究
九州大学ほか大学法人
産業技術総合研究所
電気・情報通信機械器具
パナソニック

融合基礎工学科

【学部卒業後の主な就職先】
令和3年度新設学科

【修士課程修了後の主な就職先】
電気・情報通信機械器具
京セラ
富士通
村田製作所
ソニーセミコンダクタ九州
三菱電機
ダイキン工業
輸送用機械器具
トヨタ自動車
トヨタ自動車九州
マツダ
ヤマハ発動機
デンソー
豊田自動織機
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
JFEスチール
神戸製鋼所
TOTO
古河電気工業
汎用・生産用・業務用機器
川崎重工
三菱重工業
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力
東京電力
情報通信業
NTTドコモ

【博士課程修了後の主な就職先】
化学工業、石油・石炭製品
旭化成
住友化学
三菱化学
三井化学
出光興産
三菱重工業
電気・情報通信機械器具
三菱電機
日立製作所
パナソニック
富士ゼロックス
セイコーエプソン
ニコン
東芝
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
三菱マテリアル
住友金属鉱山
三井金属鉱業
汎用・生産用・業務用機器
三菱重工業
日立ハイテクノロジーズ
高等教育機関・公務
有明工業高等専門学校
九州大学ほか大学法人
産業技術総合研究所
情報通信業
NTTドコモ

機械工学科

【学部卒業後の主な就職先】
運輸業
九州旅客鉄道
全日本空輸
日本車輌製造
大阪高速軌道
輸送用機械器具
トヨタ自動車
日本車輌製造
ヤンマー建機
東海理化
電気・情報通信機械器具
シャープ
電子部品・デバイス・電子回路製造業
日亜化学工業
情報通信業
オービック
スカイコム
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力
電源開発

【修士課程修了後の主な就職先】
輸送用機械器具
本田技研工業
マツダ
ブリヂストン
SUBARU
クボタ
デンソー
トヨタ自動車
トヨタ自動車九州
日産自動車
豊田自動織機
汎用・生産用・業務用機器
三菱重工業
川崎重工業
IHI
小松製作所
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
日本製鉄
JFEスチール
日本精工
電気・情報通信機械器具
日立製作所
三菱電機
安川電機
京セラ
パナソニック
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力
関西電力
東京ガス
生産用機械器具製造業
東京エレクトロン
建設業
日揮ホールディングス

【博士課程修了後の主な就職先】
汎用・生産用・業務用機器
三菱重工業
IHI
酉島製作所
輸送用機械器具
トヨタ自動車
日産自動車
豊田中央研究所
高等教育機関・公務・学術研究
九州大学ほか国立大学法人
宇宙航空研究開発機構(JAXA)
私立大学
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
日本製鉄

航空宇宙工学科

【学部卒業後の主な就職先】
運輸業
JAL
ANA
トヨタ自動車
ホンダ
汎用・生産用・業務用機械器具
三菱重工業

【修士課程修了後の主な就職先】
汎用・生産用・業務用機械器具
三菱重工業
川崎重工業
IHI
SUBARU
住友精密工業
輸送用機械器具
トヨタ
日産
ホンダ
マツダ
三菱自動車
デンソー
電気・情報通信機械器具
三菱電機
日立製作所
東芝
キヤノン
富士通
NEC
高等教育機関・公務・学術研究
宇宙航空研究開発機構(JAXA)

【博士課程修了後の主な就職先】
汎用・生産用・業務用機械器具
三菱重工業
川崎重工業
IHI
輸送用機械器具
デンソー
電気・情報通信機械器具
日立製作所
東芝
高等教育機関・公務・学術研究
九州大学ほか大学法人
宇宙航空研究開発機構(JAXA)

量子物理工学科

【学部卒業後の主な就職先】
電気・情報通信機械器具
日立製作所
京セラ
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
TOTO
三井金属鉱業
運輸業
西日本鉄道
建設業
JFEエンジニアリング
輸送用機械器具
マツダ
電気・ガス・熱供給・水道業
日本原燃
九州電力
高等教育機関・公務・学術研究
原子力規制庁

【修士課程修了後の主な就職先】
電気・情報通信機械器具
ソニー
富士通
三菱電機
日立製作所
富士電機
ダイキン工業
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力
中国電力
関西電力
東京電力
日本原燃
運輸業
東海旅客鉄道
全日本空輸
化学工業、石油・石炭製品
旭化成
JXTGエネルギー
高等教育機関・公務・学術研究
日本原子力研究開発機構
原子力規制庁
輸送用機械器具
トヨタ自動車
汎用・生産用・業務用機械器具
三菱重工業
情報通信業
西日本電信電話

【博士課程修了後の主な就職先】
量子科学技術研究開発機構
日本原子力研究開発機構
放射線医学総合研究所
核融合科学研究所
国立天文台
原子力エンジニアリング
電気・情報通信機械器具
富士電機
東芝
リガク
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
原子燃料工業
三菱原子燃料
汎用・生産用・業務用機械器具
三菱重工業
日立ハイテクノロジーズ
高等教育機関・公務・学術研究
九州大学ほか大学法人
海外の大学
化学工業、石油・石炭製品
旭化成

船舶海洋工学科

【学部卒業後の主な就職先】
輸送用機械器具
大島造船所
ジャパン マリンユナイテッド
今治造船
名村造船所
尾道造船
福岡造船
トヨタ自動車
ヤマハ発動機
クボタ
ヤマハ発動機
電気・情報通信機械器具
日立製作所
学術研究、専門・技術サービス
関西設計
高等教育機関・公務
県庁
市役所

【修士課程修了後の主な就職先】
輸送用機械器具
大島造船所
ジャパン マリンユナイテッド
川崎重工業
三井E&S造船
名村造船所
今治造船
住友重機械マリンエンジニアリング
新来島どっく
三菱造船
トヨタ自動車
本田技研工業
日産自動車
ヤマハ発動機
運輸業
川崎汽船
日本郵船
建設業
戸田建設
清水建設
三井海洋開発
日揮
東洋エンジニアリング
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
JFEスチール
日本製鉄
電気・情報通信機械器具
日立製作所
汎用・生産用・業務用機械器具
三菱重工業
学術研究、専門・技術サービス
日本海事協会
高等教育機関・公務
防衛装備庁
海上自衛隊幹部候補生学校

【博士課程修了後の主な就職先】
輸送用機械器具
ジャパンマリンユナイテッド
三井E&Sマシナリー
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
JFEスチール
日本製鉄
学術研究、専門・技術サービス
日本海事協会
海上技術安全研究所
汎用・生産用・業務用機械器具
三菱重工業
高等教育機関・公務・学術研究
防衛装備庁
九州大学ほか大学法人
日本学術振興会特別研究員(PD)
海外の大学

地球資源システム工学科

【学部卒業後の主な就職先】
電気・ガス・熱供給・水道業
石油資源開発
INPEX
コスモエネルギーホールディングス
九州電力
卸売業
三菱商事
伊藤忠商事
高等教育機関・公務
県庁
市役所
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
JX金属
三菱マテリアル

【修士課程修了後の主な就職先】
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力
東京電力ホールディングス
電源開発(JPOWER)
西部ガス
大阪ガス
出光興産
石油資源開発
INPEX
コスモエネルギーホールディングス
東燃ゼネラル石油
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
三菱マテリアル
住友金属鉱山
JX金属
JFEミネラル
DOWAホールディングス
太平洋セメント
卸売業
三菱商事
丸紅
三井物産
伊藤忠商事
運輸業
全日本空輸
日本航空
建設業
千代田化工建設
清水建設
輸送用機械器具
日立造船
日立建機
汎用・生産用・業務用機械器具
小松製作所

【博士課程修了後の主な就職先】
学術研究、専門・技術サービス
産業技術総合研究所
電力中央研究所
自然エネルギー財団
石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)
水ing
高等教育機関・公務
九州大学ほか大学法人
福岡県保健環境研究所
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
日鉄鉱業
石炭フロンティア機構(JCOAL)

土木工学科

【学部卒業後の主な就職先】
建設業
鹿島建設
大林組
清水建設
大成建設
前田建設工業
高等教育機関・公務
国土交通省
環境省
県庁
市役所
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力

【修士課程修了後の主な就職先】
建設業
鹿島建設
大林組
清水建設
大成建設
五洋建設
前田建設工業
横河ブリッジ
JFEエンジニアリング
高等教育機関・公務
国土交通省
環境省
農林水産省
県庁
市役所
学術研究、専門・技術サービス
日本工営
建設技術研究所
オリエンタルコンサルタンツ
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品
日本製鉄
三菱マテリアル
電気・ガス・熱供給・水道業
電力各社
西部ガス
情報通信業
NTT西日本
運輸業
JR各社
高速道路各社(NEXCOなど)
汎用・生産用・業務用機械器具
IHI

【博士課程修了後の主な就職先】
高等教育機関・公務
九州大学ほか大学法人
海外の大学
電気・情報通信機械器具
日立製作所
コニカミノルタ

建築学科

【学部卒業後の主な就職先】
公務
航空自衛隊
都庁
市役所
建設業
オープンハウス
鹿島建設
建築設備設計研究所
積水ハウス
大和ハウス工業
大和リース
VUILD
不動産業
福岡地所
フージャースホールディングス
情報通信業
サイバーエージェント
卸売業、小売業
ニトリ
日本ライフサポート
専門・技術サービス業
チェンジ

【修士課程修了後の主な就職先】
建設業
大林組
鹿島建設
清水建設
積水ハウス
大成建設
竹中工務店
東畑建築事務所
日建設計
日本設計
森村設計
不動産業
NTT都市開発
東急不動産
野村不動産
情報通信業
インテック
KDDI
野村総合研究所
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業
日鐵建材
電気機械器具製造業
三菱電機
輸送機械器具製造業
本田技研工業
専門・技術サービス業
日本工営
乃村工藝社
ランドプレイン
電気・ガス・熱供給・水道業
九州電力
運輸業
西日本鉄道

【博士課程修了後の主な就職先】
高等教育機関・公務
九州大学
外国の大学
専門・技術サービス業
自営業

Facts and Figures of School of Engineering, Kyushu University

(As of May 1, 2022)

The number of students

The number of students
3,484

The number of female students **360**

The number of University students **11,683**

83.5%

enters graduate schools.

QS World University Rankings by Subject between 2018- 2022

Engineering -Mineral & Mining Chemistry
Engineering - Chemical Materials Science

Four subject areas ranked in the top

100

in the QS World University Rankings by Subject between 2018- 2022

Ratio of job offers to students

Graduate School of Engineering

3.93
times higher

Number of faculty members

280

Total number of Kyushu University faculty members

2,332

Inbound

Number of international students

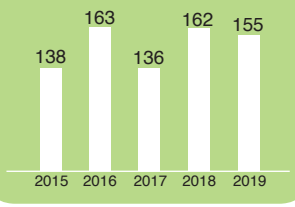
148

Number of countries/regions of international students

26

Outbound

Number of students studying abroad



Ratio of job offers to students

Graduate School of Information Science and Electrical Engineering

2.60
times higher

Ito Campus site area

FUKUOKA PayPay Dome

×39.3

YAHUOKU! DOME = 69,130m²

Area of Ito Campus

2,717,130m²

The largest Campus in Japan

Total area(including affiliated facilities)

75.81 million m²

Fukuoka, as revealed through data

by Fukuoka City official website

Population increase

1st

The shortness of the access time to the airport Among 48 cities in the world

Ratio of youth

1st

The number of protected trees Among ordinance-designated cities

Fukuoka, as revealed through data

by Fukuoka City official website

Number of international students in Fukuoka Prefecture

3rd

nationwide

Food affordability

1st

among 21 major cities

As of 2018

Fukuoka, as revealed through data

by Fukuoka City official website

Rental housing affordability

3rd

among 16 major cities

As of 2018

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学工学部
CAMPUS GUIDE 2022
発行／令和4年7月　編集・発行者／九州大学工学部

〒819-0395 福岡市西区元岡744 TEL 092-802-2728
https://www.eng.kyushu-u.ac.jp/